

愛知県におけるミカドテントウの初記録および東限記録

樋口玲来¹・山本伊織¹・滝川ティアラ¹・阿部雪音¹・加藤智哉^{1*}
Reira HIGUCHI¹, Iori YAMAMOTO¹, Thiara TAKIKAWA¹,
Yukine ABE¹, Tomoya KATO^{1*}

ミカドテントウ *Chilocorus mikado* Lewis, 1896 は、クチビルテントウ亜科に属するテントウムシで、1873 年に長崎県から記録された(加藤, 2022)。富嶋(1996)により、イチイガシの葉裏で越冬することが判明し、本州では奈良県や京都府など近畿地方を中心に各地で発見されている(高橋・中根, 1982; 初宿, 2018, 2019, 2020, 2022)。

愛知県におけるミカドテントウの記録は、グリーンデータブックあいち 2018 昆虫編 (<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/292051.pdf> 2023 年 5 月 31 日参照) に掲載はなく、名古屋昆虫同好会の会誌「佳香蝶」(<http://nagoyakondo.com/kakocho.html> 2023 年 6 月 1 日参照) にも、記録は確認されなかった。著者らは、2023 年 2 月に愛知県新城市に見られるイチイガシの葉裏から本種を採集した。これは同県における初記録であり、ここに報告する。なお、現在のところ本種の分布東限記録になると考えられる。

標本データ

ミカドテントウ *Chilocorus mikado* Lewis, 1896 (図 1-2)
4 頭、愛知県新城市片山, 16.II.2023, 著者ら採集、保管。



図 1. 愛知県新城市で確認されたイチイガシの葉裏に越冬するミカドテントウ。

備考

同定は、佐々治(1973)に従った。本種は、愛知県新城市片山の白山神社にあるイチイガシ 1 本(樹高 14 m、胸高直径 80 cm)の葉裏(高さ 1 ~ 5 m)に見られた。白山神社は水田に囲まれた民家の側に位置し、300 m 北側には奥三河の山々が見られる。観察された個体は空間の広がった南側の道路に集中しており、約 60 個体見られた。標本は愛知県立新城有教館高等学校作手校舎で保管している。

京都府レッドデータブック 2002 (<https://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb2002/bio/db/ins0072.html> 2023 年 5 月 31 日)では、分布域が下鴨神社のみであることから絶滅寸前種に指定されており、現時点では愛知県における生息地は本産地のみであり分布東限記録となることから、保全が必要である可能性も考えられる。

謝辞

本稿の執筆にあたり、分布記録についてご教示いただいた吉富博之氏(愛媛大学農学部)、久松定智氏(人間環境大学環境科学部)、戸田尚希氏(名古屋昆虫同好会)に厚く御礼申し上げます。



図 2. 愛知県新城市で確認されたミカドテントウの拡大写真。

¹ 愛知県立新城有教館高等学校作手校舎 *katou9270@aichi-c.ed.jp

引用文献

- 加藤智哉・山下知聡・重信雄哉・越智恒夫・吉富博之.
2022. ミカドテントウの愛媛県における越冬時期の生態および食性. さやばねニューシリーズ (47): 1-5.
- 佐々治寛之. 1973. 日本産テントウムシ類の見分け方成虫編. 植物防疫 27 (9): 385-394.
- 初宿成彦. 2018. イチイガシ樹上のミカドテントウ分布調査 2017. Nature Study 64 (12): 10.
- 初宿成彦. 2019. イチイガシ樹上のミカドテントウ分布調査

2019. Nature Study 65 (9): 7.
- 初宿成彦. 2020. イチイガシ樹上のミカドテントウの分布調査 2020. Nature Study 66 (9): 7.
- 初宿成彦. 2022. イチイガシ樹上のミカドテントウの分布調査 2021. Nature Study 68 (1): 2-3.
- 高橋 徹・中根猛彦. 1982. 奈良県奈良公園の甲虫 2 種. 月刊むし (203): 40.
- 富嶋雄治. 1996. 九州初記録のイセテントウとイチイガシより得たテントウ類. 月刊むし (305): 42-43.

【スナップショット】

旧佐賀関町（大分県大分市）におけるヒトハリザトウムシの追加記録

山下 晋 (Shin YAMASHITA)
python8824-ssd@yahoo.co.jp

種名 ヒトハリザトウムシ
学名 *Psathyropus tenuipes* (L. Koch, 1878)
発見情報 20 頭程度, 27.XI.2022. 大分県大分市大字馬場 (磯崎海岸)
緯度経度 33.244549N, 131.784092E
標本 写真のみ

説明 平野部の海岸堤防沿いの防風保安林に打ち上げられた、発泡スチロール製の漂着ごみ（防舷材）の下に生息を確認。フナムシ類と共に成体 20 頭ほどの集団が確認された。生態写真は観察の際に付近の堤防の凹みに逃げ出した個体を撮影。本種は大分市内では佐賀関半島（志生木、佐賀関、白木、一尺屋）のリアス式海岸の岩場に生息が確認されており（辻・山下, 2022; 山下, 2022）、環境省レッドリスト 2020 では準絶滅危惧 (NT) に選定されている（環境省, 2020）。

文献 辻 雄介・山下 晋. 2022. 大分県大分市におけるヒトハリザトウムシの記録. ニッチェ・ライフ 9: 21-22.
山下 晋. 2022. 大分県沿岸域におけるギンボシザトウムシとヒトハリザトウムシの記録. ニッチェ・ライフ 10: 38-39.
環境省. 2020. 環境省レッドリスト 2020 の公表について, <https://www.env.go.jp/press/107905.html> [閲覧日: 2022/12/10]



ヒトハリザトウムシ大分市大字馬場



ヒトハリザトウムシ生息地大分市大字馬場